

UeLAフォーラム2025及びJADE & UeLA 合同フォーラム (2026.03.05)

事例報告II 第二・第三部会合同 共通基盤教材の紹介とその活用事例 ― 8大学連携共同教育推進事業の15年を振り返って
第1部：8大学連携事業の概要と共通基盤教材を活用した入学前教育の実践事例

共通基盤教材を活用した 入学前教育の実践事例 ―山梨大学の事例―

山梨大学アドミッションセンター

特任助教 吉田 翔太郎

報告内容

- 入学前教育の背景と関連政策の展開
- 山梨大学における経緯と出願資格化
- 医学部看護学科での実践事例：共通基盤教材の受講状況分析（2022～2025年度）
- 今後の課題

「入学前教育」の定義と背景

【背景】推薦入試やAO入試では入学決定から数ヶ月の空白期間が生じ、入試準備の動機を失った高校生は**自己管理の困難や周囲への悪影響**が懸念。

(小笠原正明2018「入学前教育」『大学事典』平凡社)

【定義】主に早期合格者を対象にして、**学習意欲や動機づけ、また学習習慣や学力の維持・向上を目的として、大学に入学する以前に、大学が学習の準備などを行わせる教育活動。**

(杉谷 祐美子2015「[第3回] 高大接続に向けた大学教育の対応-移行期の教育活動の効果と課題」ベネッセ教育総合研究所『[第3回] 高大接続に向けた大学教育の対応-移行期の教育活動の効果と課題』)

【実態】1990年代半ば～2000年頃の初期の入学前教育は、履修歴を背景とした**補習教育とAO入試合格者の学習動機維持を促す教育**であり、**初年次教育とリメディアル教育の両側面**を有していた。**現在もその構造は維持されている**場合が多い。

(岡田航平 2021.「行政文書における入学前教育の変遷と考察」『京都大学高等教育研究』, 27: 48-56)

リメディアル教育4類型：山本(2001)

①高等学校までの教科教育復習型	補完授業
②大学での学習活動の入門型	大学での学びのスキル
③大学専門課程受講前の専門知識の導入型	大学の専門教育基礎
④入学前教育	合格者対象



【入学前①】高等学校までの教科教育復習型
【入学前②】大学での学習活動の入門型
【入学前③】大学専門課程受講前の専門知識の導入型
【入学後④】高等学校までの教科教育復習型

(注) 岡田 (2021)、山本 (2001) をもとに筆者ら作成

(吉本 博明ほか 2023.「入学前教育の効果と大学教育への接続に向けた課題—「学問サキドリプログラム」を事例として」『南九州大学研究報告』第53巻：23-32 (2023) 23。)

図1. リメディアル教育の新4分類

関連政策の展開

2000年：大学審議会答申「大学入試の改善について」

- 早期合格者への入学前学習指導と高校との連携協力が要請。

2003年：2004年度大学入学者選抜実施要項

- AO入試実施校に対し入学までの課題付与を「望ましい」と明記。

2010年：2011年度大学入学者選抜実施要項

- 対象をAO入試以外にも拡大し、APとの関連留意を追記
 - 「その後の入学前教育に関する伏線」（岡田 2021）

2017年：文科省「H33年度実施要項の見直しに係る予告」

- AO入試69%・推薦入試86%で入学前教育が実施されている現状を示しつつ、「入学前教育の実質化」を課題として提起。

2021年度大学入学者選抜実施要項～

- **12月以前の入学手続者には「積極的に」措置を講ずることとし、高大連携した取組を推奨するに至った。**

所謂「入試改革」以前からも実施は推奨

山梨大学のプロフィール

甲府キャンパス（甲府駅から徒歩15分）



教育学部 ●学校教育課程
Faculty of Education

21世紀を生きる人間の発達と学習を実践的に支え、
人間性と教育文化への洞察力を備えた教育人を養成

110名、7コース

医学部キャンパス（甲府郊外の中央市）



医学部 ●医学科 ●看護学科
Faculty of Medicine

医療人としての基盤を築き、夢に向かって邁進する

185名、2学科



工学部 ●工学科
Faculty of Engineering

- 総合工学クラス
- クリーンエネルギー化学コース
- 応用化学コース
- 土木環境工学コース
- コンピュータ理工学コース
- 機械工学コース
- メカトロニクスコース
- 電気電子工学コース
- 先端材料理工学科

最先端の技術と研究を展開し、世界へ羽ばたく技術者を育成

工学部 HP▶

365名、7コース + 総合工学クラス（2024-改組）



生命環境学部 ●生命工学科 ●地域食物科学科 ●環境科学科 ●地域社会システム学科
Faculty of Life and Environmental Sciences

生命環境学部 HP▶

自然環境と人間社会の共生を科学し、人類の未来の担い手を育成する

165名、4学科（うち1学科は文系）

山梨大学における入試区分毎募集人員 (2026年度入試)

学部・学科	入学定員	共通テスト無特別選抜
教育学部	110	学推52 (47%)
医学部医学科	125	0 (0%)
医学部看護学科	60	学推25 (42%)
工学部	365	学推62+総合30 (25%)
生命環境学部生命工学科	50	学推12 (24%)
生命環境学部他3学科	115	0 (0%)
合計	825	181 (22%)

共通テスト有特別選抜
を含めると30%

山梨大学における入学前教育の経緯

2006年～2017年度入試

- **工学部**で開始。センター試験を課さない推薦入試の全学科で実施。1～3月に数学・英語のeラーニング(Solomon)を課す形態。チューターによる実施状況報告・激励の手紙あり。

2017 (2018年度入試)

- 推薦入試は継続するも**工学部**では従来型の入学前教育はいったん途切れる (経緯詳細不明)。
- アドミッションセンター設置 (2017) 後、**医学部看護学科** (センター無し推薦) で実施。Solomon活用。

2018 (2019年度入試) : **工学部応用化学科** (センター無しAO) で導入

2019 (2020年度入試) : Solomonにかえて、教材の選定 (民間教材) や課題図書を用いた学習課題に変更

2020 (2021年度入試) : **工学部コンピュータ理工学科** (総合型Ⅰ)、**教育学部** (学校推薦型選抜) で実施

2022 (2023年度入試)

- **アドミッションセンターによる支援再開** (看護学科入学前教育でのSolomon (再) 使用など)

2023 (2024年度入試)

- **工学部**改組にともない全コースで総合型Ⅰ・学校推薦型Ⅰを導入、入学前教育を (再) 実施

2024 (2025年度入試)

- **生命環境学部生命工学科** (学校推薦型Ⅰ新規実施) で導入

※教育学部以外で
solomon利用

発表者着任



入学前教育受講出願資格化（2026年度入試～）

令和8年度以降の学校推薦型選抜Ⅰ及び総合型選抜Ⅰにおける入学前教育受講の出願資格化について

2024年8月2日

令和8年度以降の学校推薦型選抜Ⅰ及び総合型選抜Ⅰにおける入学前教育受講の出願資格化について

山梨大学

山梨大学では、令和8年度入試（令和7年度実施）から、大学入学共通テストを課さない学校推薦型選抜Ⅰ及び総合型選抜Ⅰにおいて、入学前教育の受講を出願資格化します。

同入試区分では、これまで合格者に対し入学前教育を実施しておりますが、予定している高大接続を意識した入学前教育の充実に合わせて、改めて出願資格化するものです。

中期計画の評価指標「各教育プログラムが実施する高大接続事業への参加を前提とした入学者選抜方法の策定・実施：令和7年度から実施、以降継続」達成のため

➤ 事実上義務化していた実態にあわせたもの

“合格発表後に、入学前教育を諸事情のため受けられなかったとしても不合格とはしませんが、受講状況等が芳しくない場合には合格を取り消すことがあります。”

アドミッションセンターによる実施支援

従来通り入学前教育は各学部・学科主体で実施するとしつつ、アドミッションセンターによる支援をアドミッション委員会で提案

1. 本学が加盟しているUeLA（大学eラーニング協議会）の共通基盤教材（一部CBT化もされているeラーニング教材）の活用支援
2. 同じ学部学科別、あるいは担当教科別の学生を募集し、学生による伴走（チューター）の仕組みを整備
3. オンライン・対面（あるいはハイブリッド）による入学予定者対象の会合の企画・運営・実施の支援
 - **学部横断型合格者入学前懇親会の実施**
 - 高大接続プログラムとも連携して2～3月に実施（UY-Navi）

2022～現在 医学部看護学科から支援要望

➤ 業者教材（教材費自己負担：進研アド学問サキドリプログラム）からeラーニング教材へ

2023～現在 工学部から支援要望

2024～現在 生命環境学部生命工学科から支援要望

※教育学部は教科・科目型の入学前教育を実施していない。

入学前教育の具体的な実施内容

R8入試合格者（R7実施）	
実施学科等	内容
医学部 看護学科	<p>入学前教育説明会 12月13日（土）10:00-11:30 オンライン 学科長挨拶、自己紹介・交流、課題の確認、e-learning受講方法説明（アドミッションセンター） 課題設定型小論文 学修計画・実施報告書作成 大学入学共通テスト・目標点申告／自己採点申告書 E-learning受講（英語、生物、化学または物理） →ほぼ全てをアドミッションセンターが担当 デジタル看護教科書</p>
工学部	<p>合格者初回会合 総合型選抜Ⅰ：11月20日（木）17:30-19:00 オンライン 学校推薦型選抜Ⅰ：12月18日（木）17:30-19:00 オンライン 学部長挨拶、入学前教育について説明、E-learning教材の紹介及びUY-Naviの紹介（アドミッションセンター） 学習計画・実施報告書 ※自主学習教材の選択肢の一つとしての位置づけ 大学入学共通テスト目標点申告書及び自己採点報告書 動画視聴・レポート提出（山梨大学工学部の研究を覗いてみよう、社会で活躍する山梨大学工学部卒業生） 英語学習サポート（「高校生のためのTOEIC L&R 学習スタートダッシュ」60分×2回）</p>
生命環境学部 生命工学科	<p>オンラインオリエンテーション 12月13日（土）10:00～ オンライン（Zoom） 印刷物送付による数学の学習（「新入生のための数学入門」＋「ふりかえり・章末問題」、12～3月） UeLA教材理科（化学・生物）の学習（Solomon、12～3月） ※進捗管理等は学科教員が担当</p>

E-learningの
位置づけが3
学科で異なる

看護学科での実践事例①

12/5(金)
合格発表



- 入学前教育説明会においてアドミッションセンターから合格者へ受講方法等を説明
- 月1-2回、看護学科の入学前教育担当教員に進捗状況を報告
- 3月に進捗状況が芳しくない合格者へは個別に連絡
- 学修計画書に基づく自主学習が基本

看護学科での実践事例②

英語
(2415問)

- 基礎がためリスニング (中学英文法) Part 1
 - be動詞・現在形
 - 一般動詞・現在形
 - be動詞・過去形
 - 一般動詞・過去形
 - 接続詞1
 - 命令文
 - 疑問詞
 - 代名詞・名詞・形容詞・副詞
 - 現在進行形
 - 助動詞1
 - 前置詞
- 基礎がためリスニング (中学英文法) Part 2
 - 過去進行形
 - 助動詞2
 - 不定詞
 - 動名詞
 - 接続詞2
 - 様々な表現1
 - 比較
 - 受動態

- 基礎がためリスニング (中学英文法) Part 3
 - 現在完了
 - 時制
 - 接続詞3
 - 間接疑問文・付加疑問文
 - 分詞
 - 関係代名詞
 - 基本5文型
 - 様々な表現2
 - 英文の流れ (句、節)
- 大学リメディアル英語
 - 英語の時制 (初級)
 - 英検3級 リスニング
 - 英検3級 筆記問題
 - 英検3級 二次試験 (面接) 問題
 - 英検準2級 リスニング
 - 英検準2級 筆記問題
 - 英検準2級 語彙文法問題
 - 英検準2級 整序問題
 - 英検2級 筆記問題

生物 (336問)

- 細胞から個体まで
 - 細胞の構造
 - 細胞と物質
 - 細胞の種類と増殖
- 代謝
 - 細胞内での代謝
 - 消化・吸収
- 生殖と発生
 - 生殖
 - 動物の生殖・発生
- 遺伝
 - 遺伝とは
 - 遺伝子の構造とはたらき

- 刺激の受容と反応
 - 刺激の受容と反応
 - 神経系
 - 効果器 (作動体)
- 個体の恒常性と調節
 - 恒常性の維持
 - ホルモンとそのはたらき
 - 自律神経とホルモンによる調節
- タンパク質と生物体の機能
 - 呼吸
 - 光合成
 - いろいろな同化
 - 細胞膜とタンパク質
- 遺伝情報とその発現
 - 遺伝子の本体
 - DNAの構造と複製

化学 (122問)

- 身のまわりの物質
 - 身のまわりの物質とその性質
- 化学変化と原子分子
 - 物質が分かれる変化
 - 物質の成り立ち
 - 物質が結びつく変化
- 化学の基礎
 - 化学の基礎
 - 物質の構成
 - 純物質と混合物
 - 元素・単体・化合物
 - イオン
 - 化学反応式
 - 化学反応式
- 酸化還元反応
 - 酸化と還元
 - 物質の構造と化学平衡
 - 化学結合
 - 生活と物質
 - 高分子化合物
 - 糖類 (炭水化物)
 - アミノ酸とタンパク質
 - 脂質

2022年に看護学科教員と確認し設定
以後4年間そのまま

画面イメージ (生物)

コース一覧

年度選択 : 2025

- 2025入学前教育 (生命工学科)
- 2025入学前教育 (看護学科)
- コース情報
 - 語学 (英語) : 基礎がためリスニング (中学英文法) Part1
 - 語学 (英語) : 基礎がためリスニング (中学英文法) Part2
 - 語学 (英語) : 基礎がためリスニング (中学英文法) Part3
 - 語学 (英語) : 大学リメディアル英語
 - 語学 (英語) : 英検三級
 - 語学 (英語) : 英検準二級
 - 語学 (英語) : 英検 2 級
- 標準生物
- 課題情報
- 教科書
- 演習問題
 - 細胞の構造
 - 細胞と物質

演習問題

細胞の構造 (進捗率: 0%)

1	2	3	4
?	?	?	?

植物細胞に特有の構造の組み合わせを1つ選びなさい。

- 1. ミトコンドリアと葉緑体
- 2. 細胞壁と葉緑体
- 3. 小胞体とゴルジ体
- 4. ミトコンドリアとリボソーム

1

次のヒント1/3

解答する

«前の問題へ 次の問題へ»

看護学科での実践事例③

2022年度（2023年度入試合格者）

※志願倍率3.1

- 物理選択0人（全員化学）
- 25人中**22人が完遂**（3人は86-99%）
- 全員100%は求めない旨看護学科教員に確認



2023年度（2024年度入試合格者）

※志願倍率2.8

- 物理選択2人
- 25人中**24人が完遂**（1人は68%）



2024年度（2025年度入試合格者）

※志願倍率2.8

- 物理選択1人
- 25人中18人が完遂（うち1人は15%）



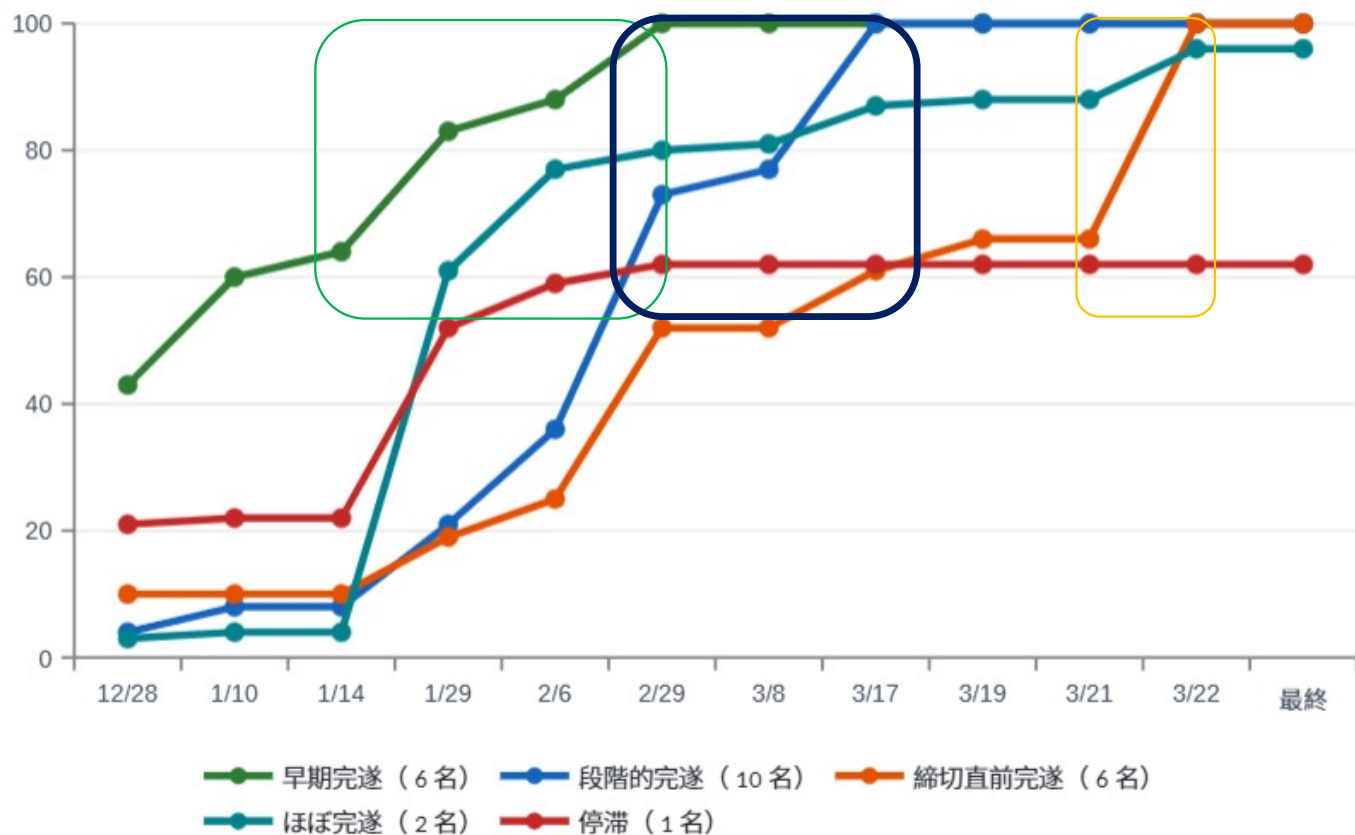
【途中】2025年度（2026年度入試合格者）

※志願倍率2.9

- 物理選択2人
- 25人中10人が完遂（3/2時点）

看護学科での実践事例④（2023年度実施）

※ 学修計画書に基づく自主学修が前提。以下は結果としての進捗推移に見られる傾向を示したもの



n=25 (2024年度入試合格者・看護学科)

看護学科での実践事例⑤

どの年度でも**3月下旬の追い込み**で完遂に到達する層が一定数存在

- 2022年度は3月下旬完遂が7名、2023年度は締切直前完遂が6名。
 - リマインドや個別連絡が有効に機能しうる層

最終的に**完遂に至らない**学生が毎年2～3名

- その中に「途中で完全に停滞する」パターンが含まれている点も共通

2024年度実施で**完遂率が落ちた**

- 専任教員が1人になり進捗確認・リマインドが後手になった
 - 担当者のモニタリング頻度が成果に直結する可能性

2025年度は**やや二極化**しており、**低進捗層が厚い**まま3月に入った

- 低進捗層→事前提出物が期日までに提出できなかった層と一部重複

看護学科での実践事例⑥

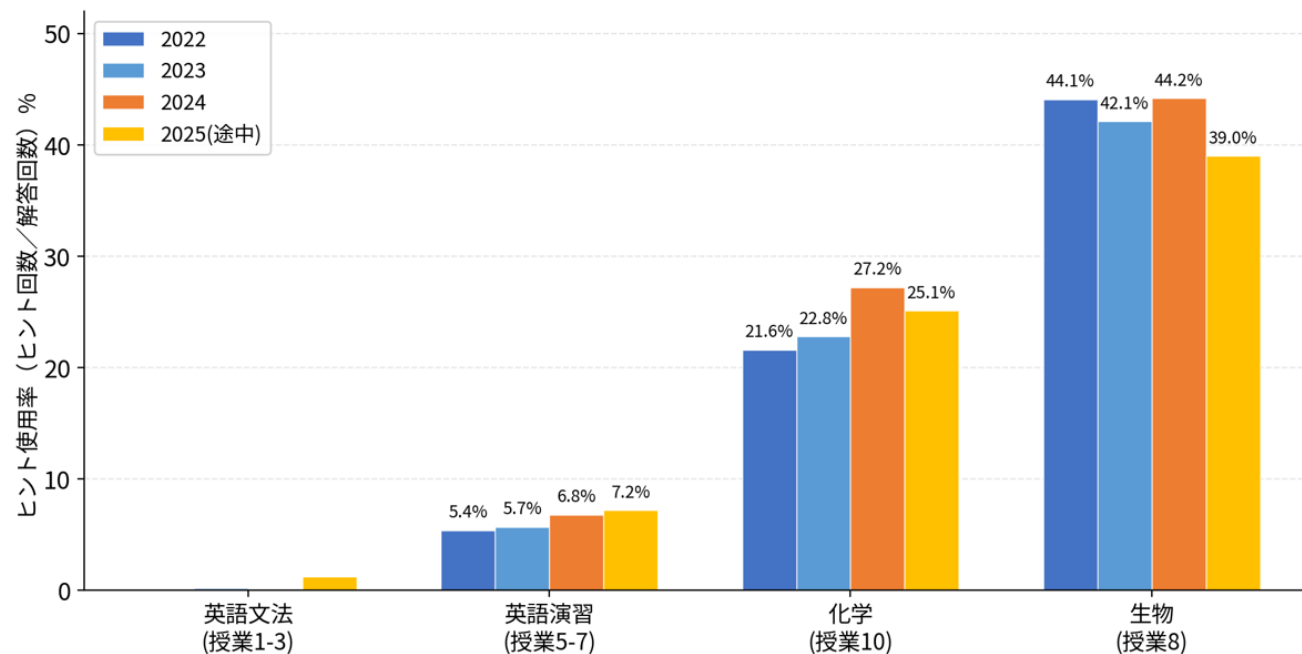
科目毎の正答率

- 英語文法（基礎固め～）は78～83%で安定的に推移
- 英語演習（英検等）は56～59%でやや低い水準にとどまる
- 生物は56～60%、化学は60～64%で、いずれも**理科系科目は英語文法に比べ20ポイント以上低い**

ヒント使用率（右図）

- 英語文法ではほぼゼロ（0.1～1.2%）であるのに対し、生物は約40%、化学は約21～27%と高く、理科系科目では繰り返し解答・ヒント参照しながら進める学習行動が常態化している

科目群別ヒント使用率の経年推移



看護学科での実践事例⑦

経年分析から見える特徴と課題

2022～2024年度の結果から

- 英語・理科ともに受講率は92～100%の水準を3年間維持しており、**入学前教育への取り組み自体は総じて良好**である
- 正答率やヒント使用率の年度間変動も小さく、**学習行動のパターンは年度を超えて再現性が高い**

理科科目の教材難易度に関する示唆

- **生物の1人当たり解答回数は総問題数の約2倍**に達しており、**同じ問題を繰り返し解答する傾向**が4年間一貫している
- **ヒント使用率の高さ**と合わせ、教材の難易度設定と入学予定者の既習水準との間にギャップが存在する可能性がある
- 物理は選択者がほぼ皆無であり、選択必修としての位置づけの再検討も一つの論点となりうる

今後の課題

◆ 科目・範囲設定の妥当性

- 科目（英語・生物・化学または物理）と出題範囲は4年間据え置きのまま。学科教員からは「おまかせ」の状態が続いている。入学後のカリキュラムとの接続を考えれば、担当者側にも内容の妥当性を判断できる知見が求められるのではないか。

◆ 効果検証の不在

- 現状は進捗報告の確認と完遂の有無を把握するにとどまり、学力の維持・向上への効果が検証されていない。効果検証の必要性は認識しつつも、対照群の設定や入学後の成績との紐づけなど、実現可能性との間にジレンマがある。

◆ 教材・プラットフォームの持続性と取組の意義の可視化

- 現行の教材は**合格者の費用負担ゼロ**という最大の利点がある一方、PC限定の受講環境はハードルとなりうる（直接的な意見は無い）。ただし入学後にPCを日常的に使用することを踏まえれば、その操作に慣れてもらう意味も見いだせる。
- 工学部では今年度から有料の民間教材（進研アド学習SAI-TEKIプログラム）を選択肢の一つとして提供し、一定の利用率があったとのこと。
- 使い続けてもらうためにも、入学予定者・高校・学部学科教員に対してsolomon受講のメリットを明示する必要がある。（通常学習の受講状況を一覧できる機能はないか？）